

短 報

百貨店の屋上に生息する
ササラダニ類について

Oribatid Mites Inhabiting Roof
Gardens of Department Stores

青木 淳一*

Jun-ichi AOKI*

青木 (1981・1983) は東京都内の百貨店の屋上のコンクリートやタイルのすき間などに生育しているコケ (ギンゴケおよびヒメギンゴケモドキ) とその下のわずかな量の土の中から採集された節足動物について報告した。その後、日本各地の都市の百貨店やスーパーマーケットの屋上で同様な調査を行なったので、先に

報告した東京都内での資料をも含めて、ここにまとめて報告しておきたい。

採集法は、屋上のコンクリートの隅やタイルのつぎ目に集積した微量の土とそこに生育するコケをスプーンですくい取り、研究室に持ち帰り、Tullgren装置によって含有動物を分離抽出した。抽出された節足動物

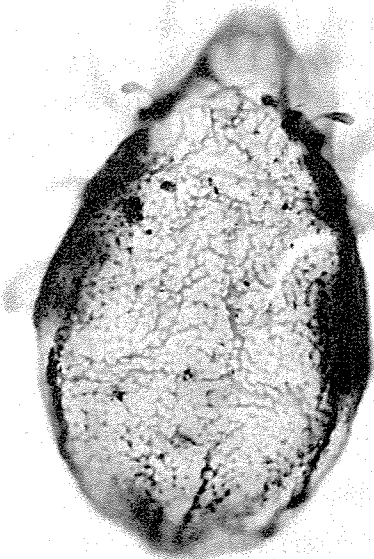


図1 現在までのところ屋上からのみ発見されているササラダニの一種、シワイボダニ *Scutovertex* sp.

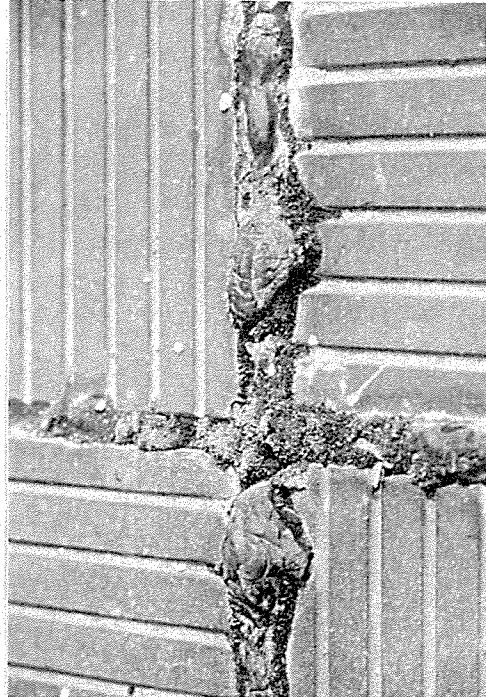


図2 百貨店屋上のタイルのつぎ目にたまった僅かな土とそこに生育するコケ (渋谷・東急百貨店)

* 横浜国立大学 環境科学研究センター 土壌環境生物学研究室
Department of Soil Zoology, Institute of Environmental
Science and Technology, Yokohama National University,
Yokohama 240.
(1987年6月30日受領)

表1 日本各地の都市の百貨店等の屋上から得られたササラダニ類

調査地点 ササラダニ種名	札幌市	"	"	仙台市	新潟市	"	東京都	"	"	"	"	"	"	"	名古屋市	"	福岡市	鹿児島市	"	出現地点数	個体数計
	丸井	五番館	三越	十字屋	越路会館A	越路会館B	渋谷東急	渋谷西武	新宿伊勢丹	銀座松屋	銀座三越	銀座松坂屋	日本橋高島屋	日本橋丸善	松坂屋A	松坂屋B	ダイエー	山形屋	丸屋		
クワガタダニ <i>Tectocephus velatus</i> サカモリコイタダニ <i>Oribatula sakamorii</i> モンツキダニ <i>Trhypochthonius tectorum</i> コンボウオトヒメダニ <i>Scheloribates latipes</i> シワイボダニ <i>Scutovertex</i> sp. マドダニの一種 <i>Suctobelbella</i> sp. エゾニセコイタダニ <i>Zygoribatula laubieri</i> ナミツブダニ <i>Oppiella nova</i> ケバマルコソデダニ <i>Peloribates barbatus</i>		1	1		3 5 25	56 1 43	5 2 1 3	1			5		12	1	4 2	6 3	1	63	1	13 5 3 2 2 2 1 1 1	159 12 28 44 4 2 1 1 1
種 数 合 計	0	1	2	0	4	6	4	1	0	0	1	1	1	1	2	2	1	2	1		9
個 体 数 合 計	0	1	2	0	34	103	11	1	0	0	5	1	12	1	6	9	1	64	1		252

のうち、今回はササラダニ類だけを取り上げ、種の同定を行なった。

調査日は、札幌：1981年9月30日、仙台：1981年8月21日、新潟：1981年10月16日、東京：1980年4月14日（渋谷東急）、1981年4月14日（渋谷西武・銀座3店）、1981年6月11日（新宿伊勢丹・日本橋高島屋・丸善）、名古屋：1982年1月23日、福岡：1982年1月24日、鹿児島：1981年7月2日である。

調査の結果は表1に示すとおりで、7都市19店から9種252頭のササラダニ類が得られた。このうち、もっとも出現頻度が高かった種はクワガタダニであった。本種はほぼ汎世界的に分布する種で、日本においてもあらゆる環境に生息する適応幅の広い種として知られている。次に出現頻度が高かったのがサカモリコイタダニであり、この種は都会地の土壌中に多いダニである。モンツキダニとコンボウオトヒメダニは出現頻度は低いが、新潟市の越路会館で多数出現している。コケや土の資料の量はまちまちであるので、意味のある比較はしがたいが、以上の種が頻度や個体数の上から百貨店屋上という環境をもすみ場とするササラダニ類の代表といっていよう。

シワイボダニは東京都内の二つの百貨店からのみ得られたものであるが、現在まで30年間にわたる日本列島各地の土壌ダニの調査で未発見であったものであり、なぜ百貨店の屋上からのみ採集されたのか、極めて興味ある資料となった。本種の種名は未確定であるが、その分類学的研究とともに、本種のすみ場所や生態について今後調べていく必要がある。

全般的傾向としては、古い建築でコンクリートなどにひび割れが多く、したがってコケの着生が多い建物にはササラダニ類が多く、逆に新しい建築で屋上に人の往来がはげしいところではササラダニ類が少ない、といえる。

本調査で百貨店を対象にしたのは屋上に上りやすいからであって、特に百貨店ということに意味はない。他のビルディングの屋上であっても、調査すればササラダニ類の生息が確認されるであろう。都会のビルの屋上は生物の生息環境としては極めて厳しいところである。夏の高湿、冬の低温、日夜の温度較差の大きいこと、強風、乾燥、雨水による水浸しなど、さまざまな悪条件が重なる。このような環境にも、ある種の土壌動物の生息が確認されたというのが、この報告の意義である。

なお、記すまでもないことと思うが、ここに報告したダニ類はすべて非吸血性のものであり、人体には全く害を及ぼさないものであることを付記しておく。

最後に、仙台・名古屋・福岡の資料を提供してくださった本学当研究室の原田 洋助手に感謝したい。

引用文献

青木淳一, 1981. 東京都内デパート屋上のコケから見出された節足動物について, 日本動物学会第52回大会講演(札幌).
 ———— 1983. 自然の診断役土ダニ, NHKブックス 438. 244頁. 日本放送出版協会, 東京.